

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-88484

(P2010-88484A)

(43) 公開日 平成22年4月22日(2010.4.22)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 7 G 21/10 (2006.01)	A 4 7 G 21/10 B	3 B 1 1 5
A 4 7 G 21/00 (2006.01)	A 4 7 G 21/00 L	

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2008-258463 (P2008-258463)	(71) 出願人	303028837
(22) 出願日	平成20年10月3日 (2008. 10. 3)		沈古 春蘭
			台湾南投県埔里鎮北梅里西安巷15号
		(74) 代理人	100093779
			弁理士 服部 雅紀
		(72) 発明者	沈古 春蘭
			台湾南投県▲埔里鎮西安巷15号
		Fターム(参考)	3B115 AA11 AA22 AA23 BA06 BB18 DB07 DB09 DB20

(54) 【発明の名称】 二段式箸

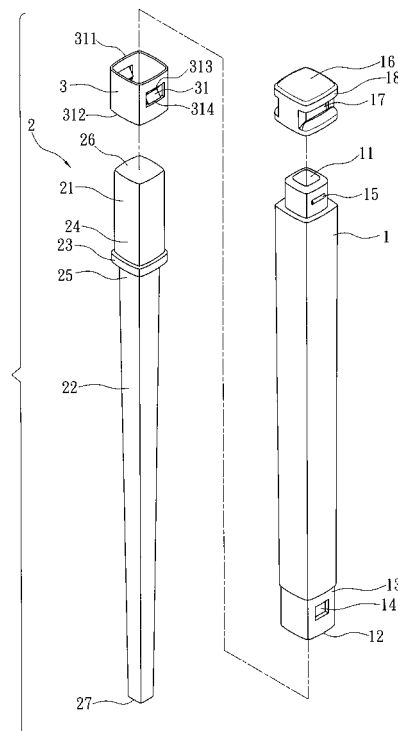
(57) 【要約】

【課題】 部品の単純化および部品の十分な固定を達成することを可能にする二段式箸を提供する。

【解決手段】 二段式箸は、上段部1、下段部2および位置制限ユニット3を備える。上段部1は、内部に収納空間11を有し、上段部1の末端12に近い外側壁に環状の連結部13を有する。連結部13は収納空間11へと連続する穿孔14を少なくとも一つ有する。下段部2は、先端26に近い部位に環状の突出部23を有し、突出部23と先端26の間に連結段21を有し、突出部23と末端27の間に握り部22を有する。連結段21は突出部23に近い部位に第一制止部24を有し、握り部22は突出部23に近い部位に第二制止部25を有する。

。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

上段部、下段部および位置制限ユニットを備える二段式箸であって、

前記上段部は、内部に収納空間を有し、

前記上段部は、末端に近い外側壁に環状の連結部を有し、前記連結部は前記収納空間へと連続する穿孔を少なくとも一つ有し、

前記下段部は、先端に近い部位に環状の突出部を有し、前記突出部と前記先端の間に連結段を有し、前記突出部と末端の間に握り部を有し、前記連結段は前記突出部に近い部位に第一制止部を有し、前記握り部は前記突出部に近い部位に第二制止部を有し、

前記位置制限ユニットは、上端と下端が前記連結部に嵌合される開放端であり、前記位置制限ユニットは、弾性のある係止固定部を少なくとも一つ有し、

前記係止固定部は前記穿孔を貫通し、前記収納空間に突出し、

前記連結段が前記収納空間に差し込まれれば、前記係止固定部が前記第一制止部を係止し、前記握り部が前記収納空間に差し込まれれば、前記係止固定部が前記第二制止部を係止することを特徴とする二段式箸。

【請求項 2】

前記係止固定部は、上部位と下部位のうちの少なくとも一つが前記位置制限ユニットに接続されることを特徴とする請求項 1 に記載の二段式箸。

【請求項 3】

前記上段部は、先端に近い部位に少なくとも一つの突出部を有し、前記突出部はキャップの係止部を係止し、前記キャップは先端に少なくとも一つの突出部を有することを特徴とする請求項 1 に記載の二段式箸。

【請求項 4】

前記係止固定部の厚さは、前記位置制限ユニットの厚さより小さいことを特徴とする請求項 1 に記載の二段式箸。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は構造が改良された二段式箸、詳しく言えば部品の単純化及び製作の容易化を可能にする二段式箸に関するものである。

【背景技術】

【0002】

図 8 に示すのは、特許文献 1 により開示される従来の二段式箸 4 である。使用の際、下段部 4 2 に装着された結合部 4 1 によって下段部 4 2 と上段部 4 3 を組み立てれば該二段式箸 4 を使用することが可能である。そのうちの結合部 4 1 は、結合本体 4 1 1 および係止部 4 1 2 を有する。係止部 4 1 2 は、弾性ユニット 4 1 3、制止ユニット 4 1 4 および収納筒 4 1 5 を有する。収納の際、下段部 4 2 を反対にして上段部 4 3 に差し込み、かつキャップ 4 4 のクリップ 4 4 1 によって挟めば、二段式箸 4 を収納することが可能である。

しかしながら、当該二段式箸 4 は部品が多過ぎるため、製造コストが高くつくだけでなく、組み立てに時間がかかる。

【0003】

図 9 に示すように、特許文献 2 により開示される別の従来の二段式箸 5 は、上段部 5 1 と下段部 5 2 から構成される。そのうち下段部 5 2 は連結段 5 2 1 にボール 5 3 を有し、ボール 5 3 は、スプリング 5 4 と固定部 5 5 によって収容室 5 2 2 に装着される。使用の際、下段部 5 2 のボール 5 3 を上段部 5 1 の穿孔 5 1 1 に嵌め込めば、二段式箸 5 を使用することが可能である。収納の際、下段部 5 2 を抜き出し、そのうち下段部 5 2 を上段部 5 1 の先端の収納室 5 1 2 に差し込めば、二段式箸 5 を収納することが可能である。

しかしながら、当該二段式箸 5 は、部品が少なくないだけでなく、製造過程においてボール 5 3、収容室 5 2 2 または穿孔 5 1 1 のうちの一つに加工欠陥が発生すると、係止が

10

20

30

40

50

できなくなり、使用が困難になるため、改善の余地がある。

【0004】

【特許文献1】米国特許出願公開第2008/0185853号明細書

【特許文献2】米国特許第7341293号明細書

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

本発明の主な目的は、前記問題を解決するため、上段部の末端に位置制限ユニットを設けることによって部品の単純化および下段部の固定を達成することを可能にする二段式箸を提供することである。従って、従来の技術と比べて、本発明はより優れている。

10

本発明のもう一つの目的は、高規格の加工精度を必要とせず上段部と下段部の安定および連結を達成することが可能なだけでなく、部品の加工を簡単化することによって製造工程の所要時間を短縮する二段式箸を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上述の目的を達成するために、本発明による二段式箸は、上段部、下段部および位置制限ユニットを備える。

上段部は、内部に収納空間を有し、上段部の末端に近い外側壁に環状の連結部を有する。連結部は収納空間へと連続する穿孔を少なくとも一つ有する。

下段部は、先端に近い部位に環状の突出部を有し、突出部と先端の間に連結段を有し、突出部と末端の間に握り部を有する。連結段は突出部に近い部位に第一制止部を有し、握り部は突出部に近い部位に第二制止部を有する。

20

位置制限ユニットは、上端と下端が連結部に嵌合される開放端である。位置制限ユニットは、弾性のある係止固定部を少なくとも一つ有し、係止固定部は穿孔を貫通し、収納空間に突出する。

そのうち連結段が収納空間に差し込まれれば係止固定部が第一制止部を係止し、握り部が収納空間に差し込まれれば係止固定部が第二制止部を係止する。

係止固定部は、上端と下端のうちの少なくとも一つが位置制限ユニットに接続される。

上段部は、先端に近い部位に少なくとも一つの突出部を有し、突出部はキャップの係止部を係止し、キャップは先端に少なくとも一つの突出部を有する。

30

位置制限ユニットの厚さは係止固定部の厚さより大きい。位置制限ユニットは上端の幅が下端の幅より大きい。位置制限ユニットは下端に環状の湾曲部を有する。

【発明を実施するための最良の形態】

【0007】

図1から図7に示すのは、本発明の実施形態の構造を説明するための例であるため、この実施形態に請求範囲が制限されるものではない。

(第1実施形態)

図1から図3に示すように、本発明の第1実施形態による二段式箸は、上段部1、下段部2および位置制限ユニット3を備える。第1実施形態では、上段部1、下段部2および位置制限ユニット3の横断面は方形を呈し、管の直径は上から下へいくにつれて縮まっている。

40

【0008】

上段部1は、内部に下段部2の収納に用いる収納空間11を有する。上段部1は、末端12に近い外側壁が上段部1より薄くなるように凹んで形成した環状の連結部13を有する。連結部13は相対両側に収納空間11へと連続する穿孔14を別々に有する。

【0009】

下段部2は、先端26と末端27を有する。下段部2は、先端26に近い部位に環状の突出部23を有し、突出部23と先端26の間に連結段21を有し、突出部23と末端27の間に握り部22を有する。突出部23は連結段21または握り部22を上段部1の収納空間11に差し込む際の深さを制御可能である。連結段21は突出部23に近い部位に

50

第一制止部 2 4 を有し、握り部 2 2 は突出部 2 3 に近い部位に第二制止部 2 5 を有する。

【0010】

位置制限ユニット 3 は、環状を呈し、上端 3 1 1 および下端 3 1 2 が上段部 1 の末端 1 2 の連結部 1 3 に嵌合される開放端である。位置制限ユニット 3 は、下端 3 1 2 から内部に伸びていく環状の湾曲部 3 1 6 を有する。位置制限ユニット 3 は相対両側に弾性のある係止固定部 3 1 を別々に有する。係止固定部 3 1 は、上段部 1 の穿孔 1 4 を貫通し、上段部 1 の収納空間 1 1 に突出することにより、下段部 2 の第一制止部 2 4 または第二制止部 2 5 を係止し、下段部 2 をしっかり固定することが可能である。

【0011】

上段部 1 の末端 1 2 において上から下へしだいに縮まる連結部 1 3 に対応するため、位置制限ユニット 3 の上端 3 1 1 の最大幅 W 1 は下端 3 1 2 の最大幅 W 2 より大きい。連結部 1 3 は陥没状を呈するため、位置制限ユニット 3 を連結部 1 3 に被せることによって使用際の不快感を避けることが可能である。

【0012】

位置制限ユニット 3 の係止固定部 3 1 は、中央位置に照準を合わせて下向きに傾斜する上部位 3 1 3 と、上部位 3 1 3 に反して傾斜する下部位 3 1 4 と、上部位 3 1 3 と下部位 3 1 4 を接続する中部位 3 1 5 とを有する。第 1 実施形態では、上部位 3 1 3 および下部位 3 1 4 は位置制限ユニット 3 に接続される。

【0013】

第 1 実施形態では、位置制限ユニット 3 はステンレスをスタンピングすることによって成形されたため、延展性を有する。位置制限ユニット 3 の係止固定部 3 1 の厚さ T 2、即ち上部位 3 1 3、下部位 3 1 4 および中部位 3 1 5 の厚さ T 2 は位置制限ユニット 3 の厚さ T 1 より小さい。

【0014】

上段部 1 は、先端に近い部位に少なくとも一つの突出部 1 5 を有し、突出部 1 5 はキャップ 1 6 の係止部 1 7 を係止する。キャップ 1 6 を容易に引き抜くため、キャップ 1 6 は先端に少なくとも一つの突出部 1 8 を有する。

【0015】

図 4 に示すように、使用の際、下段部 2 の連結段 2 1 を上段部 1 の収納空間 1 1 に差し込む。このとき下段部 2 の突出部 2 3 は握り部 2 2 を入り込ませないように阻止し、第一段階の固定を完了させる。続いて位置制限ユニット 3 の上の収納空間 1 1 に突出する係止固定部 3 1 によって連結段 2 1 の第一制止部 2 4 をしっかり連結し、第二段階の固定を完了させる。このとき上段部 1 と下段部 2 はしっかり連結されるため、二段式箸を使用することが可能である。

【0016】

図 5 に示すように、収納の際、上段部 1 の収納空間 1 1 から下段部 2 の連結段 2 1 を抜き出し、続いて下段部 2 を回して握り部 2 2 を収容空間 1 1 に差し込む。このとき突出部 2 3 は下段部 2 全体が収納空間 1 1 に入り込むことを阻止し、係止固定部 3 1 は握り部 2 2 の第二制止部 2 5 を係止し、第二段階の連結及び固定を完了させることによって体積を減少させ、収納および携帯の便を図ることが可能である。

【0017】

手入れの際、上段部 1 の末端から下段部 2 を抜き出すと部品を清潔にすることが可能である。続いて上段部 1 の先端からキャップ 1 6 を引き抜くと上段部 1 の内部を清潔にすることが可能である。

【0018】

(第 2 実施形態)

図 6 に示すのは本発明の第 2 実施形態である。第 2 実施形態では、位置制限ユニット 3 は、一側のみに穿孔 1 4 を貫通する湾曲状の係止固定部 3 1 を有する。係止固定部 3 1 によって第一制止部 2 4 を係止すれば、二段式箸を使用することが可能である。逆に下段部 2 を回して係止固定部 3 1 によって第二制止部 2 5 を係止すれば、下段部 2 を上段部 1 内

10

20

30

40

50

に収納することが可能である。

【0019】

(第3実施形態)

図7に示すのは本発明の第3実施形態である。第3実施形態では、下部位314が位置制限ユニット3に接続されなくても、上部位313が依然として位置制限ユニット3に接続されるため、係止固定部31は第一制止部24または第二制止部25を係止することが可能である。

【0020】

或いは、上部位313が位置制限ユニット3に接続されなくても、下部位314が位置制限ユニット3に接続されさえすれば、係止固定部31は第一制止部24または第二制止部25を係止し、上段部1と下段部2を固定することが可能であるため、二段式箸を使用または収納することが可能となる。

【0021】

(発明の効果)

前記説明のとおり、本発明による二段式箸は、単純な位置制限ユニット、上段部および下段部から構成され、かつ加工精度を適切に下げるという製造条件下で上段部と下段部の連結及び固定による使用および収納効果を達成することが可能であるため、量産効率を向上させることが著しくなる。本発明は体積が小さい、携帯に便利である、手入が容易である、使用の際に組み立てと取り外しを簡単かつ迅速に行うことができるなどの長所がある。

【図面の簡単な説明】

【0022】

【図1】本発明の第1実施形態による二段式箸の構造を示す立体分解図である。

【図2】本発明の第1実施形態による二段式箸の構造を示す立体図である。

【図3】本発明の第1実施形態による二段式箸の位置制限ユニットを示す断面図である。

【図4】本発明の第1実施形態による二段式箸の使用状態を示す断面図である。

【図5】本発明の第1実施形態による二段式箸の収納状態を示す断面図である。

【図6】本発明の第2実施形態による二段式箸を示す断面図である。

【図7】本発明の第3実施形態による二段式箸を示す断面図である。

【図8】従来の二段式箸の構造を示す模式図である。

【図9】別の従来の二段式箸の構造を示す模式図である。

【符号の説明】

【0023】

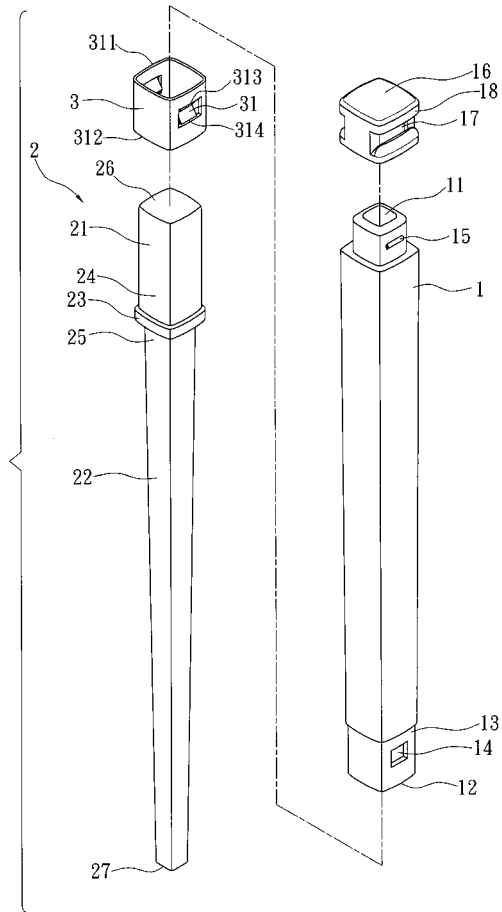
(従来の部分)

4：二段式箸、 41：結合部、 411：結合本体、 412：係止部、 413：弾性ユニット、 414：制止ユニット、 415：収納筒、 42：下段部、 43：上段部、 44：キャップ、 441：クリップ、 5：二段式箸、 51：上段部、 511：穿孔、 512：収納室、 52：下段部、 521：連結段、 522：収容室、 53：ボール、 54：スプリング、 55：固定部

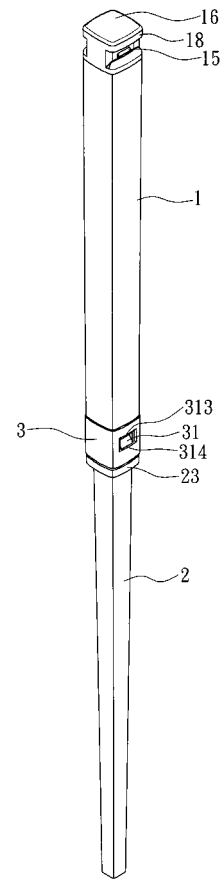
(本発明の部分)

1：上段部、 11：収納空間、 12：末端、 13：連結部、 14：穿孔、 15：突出部、 16：キャップ、 17：係止部、 18：突出部、 2：下段部、 21：連結段、 22：握り部、 23：突出部、 24：第一制止部、 25：第二制止部、 26：先端、 27：末端、 3：位置制限ユニット、 31：係止固定部、 311：上端、 312：下端、 313：上部位、 314：下部位、 315：中部位、 316：湾曲部、 W1：幅、 W2：幅、 T1：厚さ、 T2：厚さ

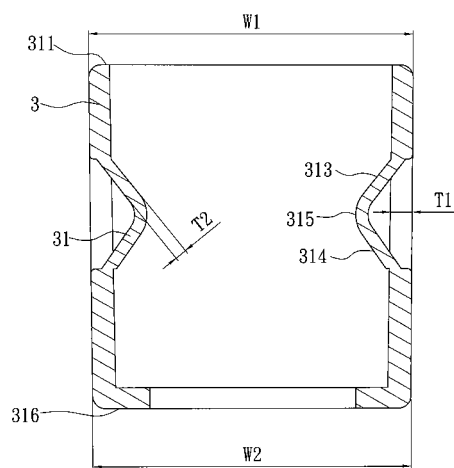
【図 1】



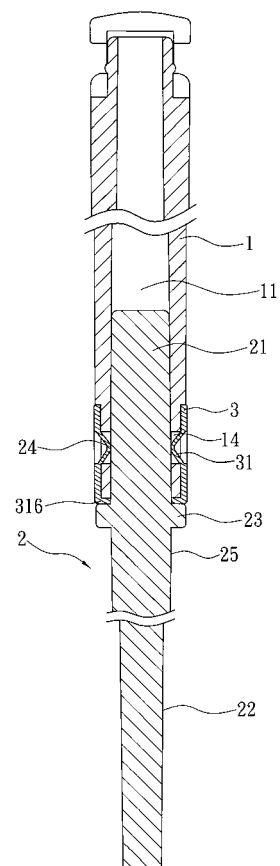
【図 2】



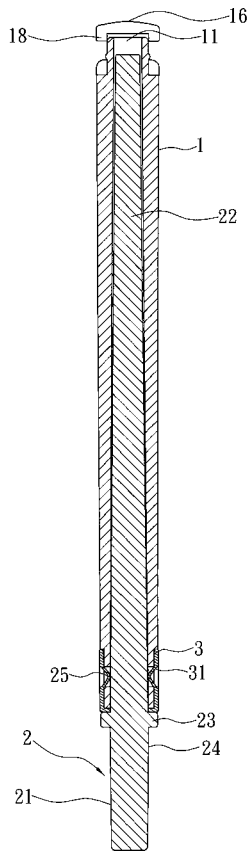
【図 3】



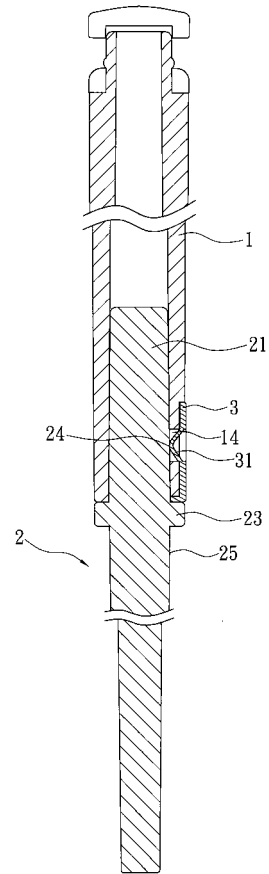
【図 4】



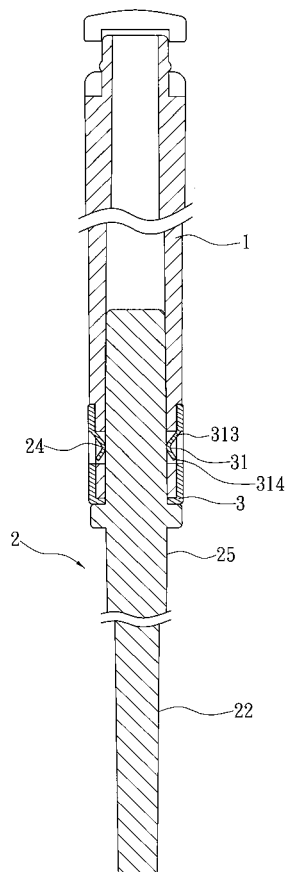
【図 5】



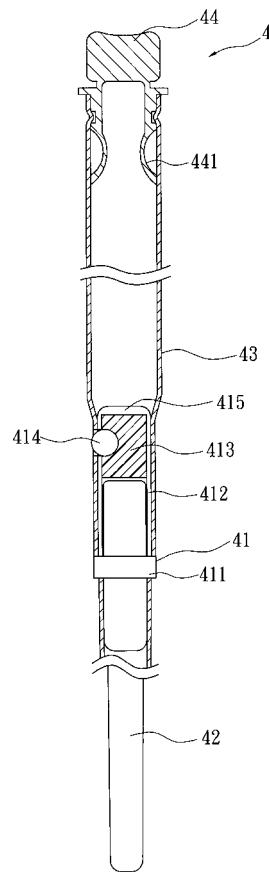
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【図 9】

